2024_0124「ケヤキの種子を食べるハトたち（動画）」日々の理科 3457 号

お茶の水女子大学　サイエンス＆エデュケーション研究所　田中　千尋

・

都会のハトは、ヒトの生活との密接な関係の中で生活しています。公園でハトの群れに出会うと、逃げるどころか追いかけてきます。何か食べ物を投げてくれることを期待しているのです。ハトの群にとっては、ヒトが多い都会のほうが都合が良いのかも知れません。

そんなハト達にとっても、さすがに１月２月の寒さの厳しい時期は、やはり食べ物に困るようです。私の研究室の窓からも、時々ハトの群れが見えるのですが、いつも一心に何か地面に落ちているものを食べています。何を食べているのかよく観察すると、ケヤキの種子とわかりました。

ケヤキは、晩秋に葉や枝と一緒に、クルクル回りながら大量の種子を落とします。巨木に似合わず、巨峰（ブドウ）の種のような小さな種子です。晩秋には子ども園の園児が喜んで拾い集めていました。その後ほとんど見捨てられていたのですが、食べ物の乏しい時期になって、ハトたちのご馳走になっているのです。ケヤキにとっても、ハトの糞が少しは肥料になるでしょうから、まあ、損はしていないでしょう。

（2024 年 1 月中旬／お茶の水女子大学構内）